

平成28年度 桂中学校 全国学力・学習状況調査 分析

全国学力学習状況調査の結果が、昨年度より遅くなりましたが文部科学省より公表されました。その調査結果を受けて、本校生徒の学力および学習状況の傾向や課題を以下のように分析しました。

(1) 学力調査の結果から

総合

両教科ともすべての領域・観点・問題形式において、昨年度同様全国平均及び京都府平均を大幅に上回る正答率なので、基礎的な知識も活用力も十分に身につけていることがわかります。また、無回答率の低さも目立っており、最後まであきらめずに取り組む姿勢が際立っています。

従って、特に設問の中で下回ったもののみを分析してみました。

国語

- 国語A
- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
 - ・辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える

- 国語B
- ・課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える

という趣旨の設問が少し苦手でした。特に基礎的な漢字の意味（賛美・優美の違い）や慣用表現（白羽の矢が・・・）に課題が見られました。また情報収集のために言語活動が今後も重要と思われる。

数学

- 数学A
- ・自然数の意味を理解している
 - ・簡単な一元一次方程式を解くことができる
 - ・垂線の作図の方法について理解している
 - ・一次関数のグラフの特徴について、表と関連付けて理解している

- 数学B
- ・グラフの傾きを事象に即して解釈することができる

という趣旨の設問が少し苦手でした。特に選択式の問題形式に課題が見られます。また、自然数・方程式・垂線等の基本的な語句の理解が不十分であったようです。また正しい解釈のための言語活動も大切だと思います。

(2) 学習状況調査（生徒質問紙）の結果から

①学習に対する関心・意欲・態度

国語

- I 国語の勉強は好きですか？
- II 国語の勉強は大切だと思いますか？
- III 国語の授業の内容はよく分かりますか？
- IV 読書は好きですか？
- V 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？
- VI 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか？

上記の質問に対して「当てはまる」と回答した値を、京都府平均、全国平均と比較することにより分析しました。

	桂中学校	京都府	全国
I	14.3%	21.0%	23.5%
II	53.9%	55.4%	56.3%
III	24.3%	25.8%	26.2%
IV	47.8%	43.5%	46.5%
V	51.7%	47.3%	46.2%
VI	22.6%	19.4%	19.5%

以上のことから、国語という教科そのものに関する関心は低いように感じます。特に、「好きです」という生徒が全国より約9ポイント低く、「よく分かる」という生徒も約2ポイント下回っていました。しかし、国語A・Bとも正答率は逆に約4～5ポイント上回っているという結果でした。関心・意欲と結果がつかない内容になっているのは、「社会で役に立つ」と考える生徒が多いことや、「読書が好き」な生徒が多いこと、「資料読み」に慣れていること等図書館教育の充実や朝読書に取り組んでいることが一因と考えることができます。学習への関心を高め、意欲を一層高める授業展開の工夫をし、やりがいのある課題を設定すれば驚くような力を発揮することが予想されます。

数学

- I 数学の勉強は好きですか？
- II 数学の勉強は大切だと思いますか？
- III 数学の授業の内容はよく分かりますか？
- IV 数学ができるようになりたいと思いますか？
- V 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？
- VI 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか？

国語同様、以下の数値は、「当てはまる」の値です。

	桂中学校	京都府	全国
I	21.3%	26.0%	29.3%
II	43.9%	44.5%	47.0%
III	29.1%	30.1%	31.7%
IV	74.3%	69.0%	74.4%
V	31.7%	35.5%	36.9%
VI	32.2%	33.8%	35.5%

以上のことから、国語同様、数学という教科そのものに関する関心も低いように感じます。特に国語と違い、「社会で役に立つ」と考える生徒が少なく、「簡単に解く方法を考える」という積極的な生徒もやや少ないことから、数学A・Bとも正答率が6～9ポイント上回っている理由をこの結果から見つけるのは難しいです。しかし、「できるようになりたい」と意欲ある生徒は全国平均並みなので、一層意欲を持って取り組む態度を育て、将来の期待感を抱かせる授業展開の工夫をすれば、国語と共にさらなる成長も期待できます。

②規範意識・自尊意識

- I 学校の規則を守っていますか？
- II いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？

Ⅲ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか？

Ⅳ 自分には、よいところがあると思いますか？

Ⅴ 将来の夢や目標を持っていますか？

以下の数値は、「当てはまる」の値です。

	桂中学校	京都府	全国
I	65.7%	58.4%	61.6%
Ⅱ	81.7%	74.5%	74.8%
Ⅲ	78.3%	68.1%	69.3%
Ⅳ	28.3%	25.0%	27.4%
Ⅴ	44.8%	42.5%	45.1%

きまりを守り、いじめを許さない規範意識は非常に高いものがあり、人のために尽くす意識も高いです。一人の人間として重要な部分である道徳的な意識の面が優れていることが分かります。しかし、よいところがあるという自尊意識や将来展望は全国平均並みで、自分自身を肯定的にとらえられていない生徒が多いことがうかがえます。

③学習の基礎となる活動・習慣

【言語活動について】

I 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか？

Ⅱ 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか？

Ⅲ 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか？

以下の数値は、I、Ⅱは「当てはまる」、Ⅲは「そう思う」の値です。

	桂中学校	京都府	全国
I	19.1%	17.3%	17.6%
Ⅱ	54.3%	51.1%	55.1%
Ⅲ	31.3%	34.6%	30.3%

自分の考えや思いを上手く伝えたり、授業で説明したりできる割合は全国平均より高いので、アウトプットは苦手と感じていないようです。しかし、他者の考えや思いを受け止めようとする姿勢が全国平均より低く、インプットにやや苦手感があるようです。コミュニケーションの取り方において、個人的にも得手不得手があり、一層の言語活動を取り入れることにより、生きる力としてのコミュニケーション力を育てることは本校の課題の一つと考えられます。

【生活習慣について】

I 朝食を毎日食べていますか？

Ⅱ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか？

Ⅲ 普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか？

以下の数値は、I、Ⅱは「している」、Ⅲは「全くしない」の値です。

	桂中学校	京都府	全国
I	86.5%	81.1%	83.3%
Ⅱ	41.3%	30.7%	30.8%
Ⅲ	21.7%	15.7%	16.6%

基本的な生活習慣は、しっかりと身につけていることが分かります。中学生でテレビゲームを全くしないという割合が高いのも現代文化から考えると幼すぎる傾向が見られるのかもしれませんが、決して悪いことではなく、家庭教育力の高さが想像できます。

【学習習慣について】

- I 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？
（数値は、1時間以上2時間未満している割合）
- II 学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか？（数値は、学習塾に通っている割合）
- III 家で、学校の宿題をしていますか？
- IV 家で、学校の授業の復習をしていますか？

III、IVは「している」の値です。

	桂中学校	京都府	全国
I	32.6%	30.0%	33.7%
II	69.6%	65.1%	61.1%
III	75.2%	62.2%	68.1%
IV	17.0%	14.5%	18.4%

昨年度より減ったものの、依然として通塾率が高く、学校の宿題もきちんとしています。学習時間や授業の復習は全国平均より低くなっています。周りの人がしていることや成績に響くことは取り組むが、そうでないことは後回しにしているのかもしれませんが。現段階での学力は高い数字を示していますが、将来社会で生活するための確かな学力としてはまだまだ足りない面が見られます。主体的な学習態度を育てることが急務と考えます。

（3）今後の取組に向けて

基本的な生活習慣は定着し、学習習慣も身に付き、規範意識も高く、人のために頑張るという真面目な生徒の一面がはっきり出ていると思います。そのことが様々な学校生活の優秀さはもちろんのこと、学習面において抜群の結果を見せた一因と考えることができます。しかし、国語・数学への関心は低いにも関わらず高い学力結果を示しているのは、普段の授業では前向きな姿勢を見せないが、成績に関わることや塾のことは頑張るというやや打算的な残念な面と共通しているように感じます。

人物的に優れた面を持っているので、基礎的・基本的な内容を大切にしながら、主体的に何事にも取り組む姿勢を培い、将来への展望を強く持ち、他とのコミュニケーションを一層図ることができれば、格段の成長が期待できます。そのために、今後も興味・関心をひく授業の展開工夫、基礎・基本の反復学習、アクティブラーニングによる主体的な学習意欲やコミュニケーション力の伸長、道徳を中心とした心の教育の推進など一層の工夫をした取り組みが大切と考えます。